

「素材系事業」と「機械系事業」の2本柱に加え 電力供給事業を安定収益基盤とする 独自の複合経営を強化してまいります。



代表取締役社長

川崎博也

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

本年4月1日に、私が代表取締役社長に就任いたしました。非常に厳しい環境の中で、果たすべき責務の重大さを痛感しておりますが、全力で、今後の社業の発展にあたりたいと思っておりますので、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、当期の当社グループの業績は、後述の業績のご報告にてご説明させていただきますとおり、鋼材事業の収益力低下などにより、2期連続で当期純利益の赤字という、株主の皆様のご期待に沿えない、大変厳しい結果となりました。

また、この結果を踏まえ、当期の配当につきましては、見送ることとさせていただきます。

株主の皆様には、多大なご迷惑をおかけすることになり、誠に申

し訳なく深くお詫び申しあげますが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

こうした状況を踏まえ、当社グループは、2013年度黒字化必達を目標に、昨年10月に体質強化委員会を立ち上げるなど、収益回復への取組みを開始いたしました。この体質強化委員会を中心とした取組みや徹底的なコスト削減を全社を挙げて実施することに加え、鉄鋼事業で実施中の戦略的コストダウン投資の効果の一部取込み、さらには、減価償却方法の変更による収益押し上げ効果を取り込むことで、2013年度の連結業績については、経常利益450億円、当期純利益350億円の黒字を達成できるものと見通しております。

さらに、2013年度以降の収益改善にむけて、本年5月に「2013～2015年度グループ中期経営計画」を策定いたしました。

この中期経営計画の3年間は、「KOBELCO VISION“G”」を実現

するための「経営基盤の再構築」の期間、さらに、2016年度以降の中長期を見据えた、「収益の安定」と「事業の成長」に向けた布石をうつ期間と位置付け、今後様々な施策に着手してまいります。

「経営基盤の再構築」としては、鉄鋼事業でのコストダウンの徹底や、コストダウン投資効果の着実な取込みによる、事業部門黒字化に取り組むこと、棚卸資産の削減、債権・資産の売却などによるキャッシュフローの創出、海外拠点の活用による最大受注量の確保などを進めてまいります。

「安定と成長への布石」については、「鋼材事業の構造改革」、「機械系事業の戦略的な拡大」、「電力供給事業の拡大」を重点課題としました。

具体的には、2017年を目処に、神戸製鉄所の上工程設備の休

止と加古川製鉄所への集約による鋼材生産の抜本的な収益力強化、圧縮機や建設機械の事業拡大、栃木県真岡市での発電所建設に向けた手続きの推進、神戸製鉄所高炉跡地での電力供給事業の可能性の検討などを積極的に進めてまいります。

当社グループは、安全やコンプライアンス意識の向上を図るとともに、中期経営計画に掲げた取組みを通じて、「素材系事業」と「機械系事業」の2本柱に加え、電力供給事業を安定収益基盤とする当社グループ独自の複合経営を強化し、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

※中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

